

47年度第5回 拡大幹事会議事録

1. 日 時 昭和48年2月20日(火) 13:00~17:30
2. 場 所 東京本部第3会議室
3. 出席者 百田、塚田、五十嵐、桂木、大野、中嶋、久武、西村
4. 議 事

1) 前回議事録確認

JENDLのFormatについて、3頁、上から9、10、11行を次の様に訂正した。

「JENDLのFormatの変更、たとえば confidence levelを入れるなど、について将来の検討事項として配慮する……」

2) 48年度の実行計画案の検討(資料配布)

48年度計画

1) 核データ評価ワーキンググループ

i) U-235, U-238, Pu-239, Pu-240 の評価の詰めを行なう。(1keV~15MeV)
出来ればPu-241を追加したい。

ii) U-235, U-238, Pu-239, Pu-240の共鳴パラメータの収集を終了し、評価作業に入る。

iii) 軽、中重核のデータ収集

計算費 200万(100万)

2) 核データ検索システムワーキンググループ

- i) データの重ね合せプロットのプログラムの報告書を出す
- ii) データの重ね合せプロットの編集を行ない出版する
- iii) NESTORのデータインデックスと修正コードの整備を行なう。
- iv) COMFORDの実用を行なう。
- v) データの現状表示、3次元表示などのプログラムを作成する。
- vi) ワーキンググループの経緯、全体としての核データ格納検索システムなどについての報告を考慮する。

印刷費 50万 (100万)
計算費 100万

3) 热中性子散乱ワーキンググループ

- i) JENDLに収納するため、 H_2O , D_2O 黒鉛, Be, BeO の評価作業を行なう。
- ii) 文献調査とその索引を作成する作業を続ける。

計算費 0

4) FFP核データ評価ワーキンググループ

- i) 重要28核種の断面積データを4月末までに ENDF/B型にまとめ。レポートを作る。
- ii) 他の核種のデータも逐次整えて行く
- iii) Yield データの評価をまとめる

計算費 200万(100万)

- a 核データ専門部会から提出された2月2日の部会連絡会メモの資料にもとづいて討議が行なわれた。
 - ・委員会作業という言葉よりは、協同作業という言葉が適當ではないか：同時に2人以上でやることも、1人1人が分担してやることも、委員会活動としては協同作業である。
 - ・専門部会で評価は行なわないという表現は混乱を起す恐れがある。
 - ・評価の作業には2通りあり、1つは個人の専心作業で個々のものを作っていく仕事、1つはJENDLに入れる作業でスケジュールのあるプロジェクト的な仕事である。
 - ・評価をどこで、どのようにやるかについては、2月22日の全体会合で討論し検討する。
 - ・研究室の嘱託の強化、契約制の採用、データの提供による研究室との協同研究などで評価作業を推進する。
 - ・義務感が大きすぎたのではないか。委員会の仕事には限界がある。
- b 炉定数専門部会からは、47年度の経過報告、48年度計画の説明があ

り、質疑応答が行なわれた。

4.7 年度経過

1. ENDF/B-2, 3, UKNDL-70, JFS データの比較プロットを行なった。
2. GAM-THERMOS 用入力の改訂を行なった。
3. FFP 炉定数の作成を Cooks のデータを使って行なった。
4. SPLINE code *IC cathode Ray Tube* を call する部分を加えた。
5. 核融合炉のための *one-ray* による energy deposit を計算するための library を検討した。

4.8 年度計画

1. 炉定数の作成と評価
 - a) データの比較のプロット
 - b) mechanical evaluation

SPLINE, SCORE-2 を使う。
2. 熱中性子炉系実験による炉定数のベンチマークテスト
3. FFP 炉定数の作成
核データ専門部会のデータを使ってベンチマークテストを行なう。

データの比較プロットに関しては、両専門部会で重複することも考えられる。使用目的とのかね合いもあるので、実行にあたっては両者よく連絡をとるよう要請された。

本委員会としての長期計画が必要ではないかという意見があり、これに対しては、今回は4.8年実行計画の検討が先決なので、次回幹事会、本委員会などで考えていくことになった。

3) JENDLについて

4.8年度研究計画に関連して JENDL に関する個所が 4ヶ所ある（核 1. 核データ、シグマ委、所内WG）。したがってそれぞれの分担、すすめ方、協力関係について考え方をはっきりさせておく必要がある。これらの考

、え方にについて意見の交換を行なった。

- ・ JENDLへの協力体制：核データ専門部会としては、評価すみデータを出していくところまで。JENDLをつくるにはもう1つのステップがいるだろう。
- ・ このあとの仕事は JENDL WG. が所内にできるのが望ましい。そこでは内挿の式の決定、データの Consistency のチェック、データシート、IC データを書き込む等を行なう。
- ・ 所内 W.G. での仕事をする場合、実験データと評価データをプロットした Superposed production のデータは参考になるだろう。
- ・ シグマ委員会としては、micro のデータに戻って考えるという立場をとる。
- ・ 委定数ではデータの組合せに問題点がある。データの経年変化等も参考にしている。
- ・ 0 次 JENDL から 1 次 JENDL に移るとき、0 次版での問題点を委員会でアナウンスする。すなわち、micro と Integral の両方のグループに周知する。これを解決するため “evaluated data” を evaluate するグループを組織する。
- ・ 組織が具体的に問題になるのは 49 年度であろう。
- ・ 委員会か、所内 W.G. かという場合、二者選一ではなく、委員会は “評価面”、所内 W.G. は “技術面” を分担するという行き方が考えられる。
- ・ JENDL のタイムスケジュールは
0 次版 7 月頃：1 次版 48 年度末（？）と予定されている。

4) トピックス(塙田)

- a AEC ニュースレターにのっている (Fusion Front) について報告があった。米国では CTR の Subcommittee が USNDC に加えられた。

- b 世界の 4 データセンタについての組織略図を配布し、説明があった。

5) 次回

48 年度実行予算 (3 月 6 日予定) が決定してからなるべく早く、本委員会前に開く。

以上